

# 長期保証は自信の証、 新築はもちろんリニューアルにも！ [ニチハ株式会社]

千葉支部  
唐島 あゆみ

## 第4回

今回取材を受け入れてくださったのは、ニチハ株式会社さんです(以下、ニチハ)。東京ショールームにお邪魔しました。

ニチハは愛知県名古屋市に本社を置く、建材メーカーです。愛知県は瀬戸物という名称でも知られるとおり、陶器の一大産地でもあります。

ニチハは戦後の経済復興期の1956年、木材資源の有効利用を目的に「日本ハードボード工業株式会社」として誕生しました。インシュレーションボードの製造・販売で業績を拡大し、1972年に住宅事業を開始します。1988年に社名を「ニチハ株式会社」と変更し、窯業系及び金属系外装材の製造・販売でシェアを伸ばし現在に至ります。取り扱い製品は、外装材・屋根材・軒天・耐火野地板・外装部材・ウォールアクセサリー・シーリング・耐力面材・繊維板など多岐に渡りますが、今回は窯業系外装材を中心としてご紹介いたします。

外装材の市場としては、2025年3月時点で国内の戸建住宅における外装材の材料別のシェアは、窯業系サイディングが79.1%、アルミサイディングが6%、スチールサイディングが5.6%、その8割を窯業系が占めています(一般社団法人日本窯業外装材協会)。

その窯業系サイディングの約60%のシェアをニチハが持っているとのことでした。

2000年前半に多くあった窯業外装材メーカーは、すでに国内には5社しかありません。このうち1社は2026年で事業終了予定ですので、4社になると思われます。人口減少の進む現在、住宅の着工件数は減っていますが、窯業系外装材は工法の検討により最大高さ45mまで施工可能となり、中層のビルやマンションという市場にも対応できるため、新築・リフォームを問わず採用の機会が増えているそうです。ホームページではたくさんの施工事例のBefore・Afterを見ることができますので、案件検討の際はご参考いただけたらと思います。重厚



感を出す意図でマンションのエントランス内壁に外装材を使用したり、木目の風合いを取り入れたいとの意図から、松戸市の小学校新築工事の外装に採用されたそうで、設計者としては、選択肢が広がるのは喜ばしいことです。

窯業系外装材のメリットは、工業製品のため材質が均一であること、防耐火性、遮音性、工期の短縮はもちろんですが、やはりデザイン性の高さが挙げられます。原料はセメント質原料、繊維質原料と混和剤ですが、製品は木目調・タイル調・レンガ調など、それぞれ風合いが全く異なります。この表面は全て塗装で表現しているようですが、そのリアルさには驚くばかりで、これが塗装ですか?と何回か聞き直しました。

よりリアリティを高めたい場合は、外装材の厚みが重要だそうです。ニチハの窯業系外装材には14・16・18・21mmの厚みの種類がありますが、21mmはその厚みを生かして彫りを深くできるため、実物に石を積んだような質感に近くなり重厚感が出ます。これは写真を並べても比較しにくいと思いますので、ぜひ東京ショールームで現物をご覧ください。

また、塗装と同時に表面の保護膜を選ぶことができます。この保護膜のグレードで耐候性、防汚性に違いが出ます。当然ですが高価なものほど長持ちし、ハイグレードなものでは塗膜30年保証対象品があるとのことでした。

外壁の長さにも特徴があり、長さ1,820mmの商品「フュージェ」と「クール」は、シーリングの目地を窓周りコーナー部など、必要最小限にすることができます。